

2025 年度から倫理，政治・経済ともに公共が試験範囲として追加されましたが，倫理部分の出題に関しては，従来のセンター試験・共通テストから出題形式が大きく変わったわけではありませんでした。倫理では必ずと言ってよいほど出題される人物がいます。そこで，2004 年から 2025 年に実施されたセンター試験・共通テストの問題を分析し，その中で頻出の人物に関する問題を紹介していこうと思います。今回は 2004 年から 2025 年までに 15 回出題された「カント」についての問題を紹介します。まずは 2023 年度の問題です。

問 4 下線部④に関して，次の文章は，自由を論じたカントの思想についてある生徒が調べて作成した**読書ノート**の一部である。カントの思想を踏まえて，**読書ノート**中の **a**・**b** に入る記述の組合せとして最も適当なものを，後の①～④のうちから一つ選べ。 20

読書ノート

カントは，自由を，**a** ことだと考えた。この自由についての考え方は，私が考えていた自由の理解とは大きく異なるものだと感じた。私はこれまで「眠くなったら，眠気に逆らわずに寝る」というようなことが自由だと思っていたが，カントによれば，それは自由ではない。むしろカントは，**a** 自由な人格に尊厳の根拠を見いだしている。そして，**b** 理想の道徳的共同体を目的の王国とした。

- ① **a** 感覚や知覚からなる経験を推論する
b 各人が各々の欲求の充足を人格の目的として最大限追求しながら，誰もがその目的を実現できる
- ② **a** 欲望から独立して自分を規定する
b 各人がお互いの自由を尊重して，自分だけに妥当する主観的な行動原則を目的として行動できる
- ③ **a** 自らが立法した道徳法則に自発的に従う
b 各人が全ての人格を決して単に手段としてのみ扱うのではなく，常に同時に目的として尊重し合う
- ④ **a** 自然の必然的法則に従う
b 各人が公共の利益を目的として目指す普遍的な意志に基づき，徳と幸福とが調和した最高善を目指す

【解答】

正解：③

【解説】

読書ノート中の空欄に入る記述の組合せとして適当なものを選ぶ問題です。カントが自由をどのように捉えていたか踏まえ、また、カントの思想で出てくる「目的の王国」の説明はどれが正しいのかを選ぶことができれば正解できます。カントは自由を、自らが立法した道徳的法則に自発的に従う実践的なものと捉えていました。つまり、自由だからといって自分の欲望のままに行動するのではなく、自らが定めた道徳的な法則に従って誰からも強制されることなく自ら行動できることが自由だとしたわけです。また、カントは自らの理性が命じる道徳法則に従って、自立的に行動する自由な道徳的主体を人格とし、人格の尊重を説きました。「汝の人格や他のあらゆる人の人格の内にある人間性を、いつも同時に目的として扱い、決して単に手段としてのみ扱わないように行為せよ」という、カントが残した言葉に人格の尊重をみることができます。人格を単に手段として扱うというのは、他人や他人の行動を道具のように扱うことです。カントは人格を尊重しあう理想的な共同体を目的の王国としました。以上の内容を踏まえると、それぞれの空欄に当てはまる組合せは③であると導くことができます。

引き続き、「カント」に関する問題を紹介します。続いては、2024 年度の問題です。

問3 下線部㉔に関連して、Fと先生Tは次の会話を交わした。カントの思想と後の資料についての説明として最も適当なものを、後の①～④のうちから一つ選べ。

19

F：カントによれば、人間は道徳法則の命令に無条件に従うべきなのですね。美しさについても無条件の法則があると考えているのでしょうか？

T：いい質問ですね。カントは、道徳の判断も美の判断も、普遍的な立場から行われるべきだと述べていますが、美の場合は、普遍的な法則を根拠にするのとは異なる判断の仕方を求めています。彼は美を判断する能力のあり方を「共通感覚」と呼び、この資料のように説明しています。

資料 『判断力批判』より

私たちが共通感覚を働かせるためには、自分の判断を、他者の実際の判断と照合するというよりも、むしろ、ただ他者が行う可能性のある判断と照合し、私たち自身の判断にたまたま付きまとっている制約をただ取り除くことによって、他のあらゆる人の立場に身をおかなければならない。

F：なるほど。カントの要求を満たすのは簡単ではなさそうですね…。

- ① 認識能力の範囲と限界を問う批判哲学を唱えたカントは、資料によれば、他人なら美しさをどう判断するか、その可能性を考慮せよと求めた。
- ② ルソーによって「独断のまどろみ」から目覚めたと語ったカントは、資料によれば、美について自己の限定された視点を乗り越えるように求めた。
- ③ 感性と悟性の協働により認識が成立するとしたカントは、資料によれば、美について自己が行う判断を、他者が行った判断と照合すべきだとした。
- ④ 「物自体は認識に従う」というコペルニクスの転回を唱えたカントは、資料によれば、人は自分の個性に即した美の基準を持つべきだとした。

【解答】

正解：①

【解説】

この問題は、選択肢の前半部分でカントに関する正しい知識を、後半部分では資料を正しく読み取れるかを問う問題です。それぞれの選択肢をみていきましょう。まずは、前半部分のカントに関する正しい知識について、①「認識能力の範囲と限界を問う批判哲学を唱えた」、この部分はカントについて正しい記述です。カントは、人間の認識能力が及ぶ範囲と限界を明らかにしようとする批判哲学の立場をとりました。②「ルソーによって「独断のまどろみ」から目覚めたと言った」、この部分はカントについて正しい記述ではありません。カントが「独断のまどろみ」からめざめたのは、ヒュームの懐疑論の影響でした。よって、②は不適当な選択肢となります。③「感性和悟性の協働により認識が成立するとした」、この部分はカントについて正しい記述です。カントは、現象を受け取る感性の経験と、それを対象へと組み立てる悟性の思考が合わさることによって認識が成り立つと考えました。④「物自体は認識に従う」というコペルニクスの転回を唱えた」、この部分はカントについて正しい記述です。カントは、それまで認識が対象に一致するという伝統的な認識についての立場を逆転し、対象が認識の枠組みに一致すると説きました。これを地動説による天文学の大転換にたとえ、コペルニクスの転回といわれます。前半部分を確認しましたが、ここでは②のみが不適当であると判断できました。

続いては、後半部分での資料の読み取りについてみていきましょう。資料では自分の判断を他人が実際に行った判断と照合するよりも、他人が行う可能性のある判断と照合すると述べられています。ポイントとしては、実際の判断ではなく可能性のある判断を考慮するという点です。それを踏まえて選択肢を吟味していくと、③「他者が行なった判断と照合すべき」、④「人は自分の個性に即した美の基準を持つべきだとした」、この両者は資料の内容に不適当だと判断することができます。①「他人なら美しさをどう判断するか、その可能性を考慮せよと求めた。」、この選択肢は資料の記述に合致しているといえるので、正解は①となります。

※知識だけでなく、読み取り能力も問われるのが倫理の特徴です。センター試験・共通テストの過去問を使って読み取り問題に慣れていきましょう。

次回は 2004 年から 2025 年の間に 16 回出題された「ブッダ」についての問題を紹介する予定です。